



活動を紹介！

【町二区】令和6年度

令和6年度を振り返って

町二区区長 松崎 俊彦

令和5年度はコロナ禍が落ち着きを見せ徐々に活動が再開され、令和6年度になると全ての活動が行われるようになりました。まだまだコロナやインフルエンザが流行していますが、マスクなど自己防衛で身を守りながら自由に生活できる喜びを享受していることかと思えます。

今年度の町二区は、区民全員で達成した出来事が二つありました。7月に行われた市民総合体育大会での総合優勝と1月消防出初式での『永年無火災表彰』です。市民総体での総合優勝は数年振りであり、若い力が結集した成果として喜びを噛みしめました。また、永年無火災表彰は日頃からの区民全員による防火意識の賜物であり、町二区の誇りです。日頃から巡視などで支えて頂いている消防第三分団の方々にも心から感謝申し上げます。

毎年の行事として行われている『二十歳を祝う会』には13名、『敬老会』には109名のご参加をいただき盛大に祝宴を開催することができました。少子化や高齢化が問題になっていますが、若い方には地域活性化の活力として、高齢者には知識と知恵の伝達を今後お願いいたします。

先送りした課題も残されています。

自治組合の崩壊危機です。自治組合の区民が高齢化により、役員を担うことができる中高年層が毎年役員をやらなければならない。高齢者層も勿論のこと中高年層も自治組合を維持する事に疲れ切ってしまっている、そんな自治組合が増えているのが現状です。連合組織として、数年毎に役員が回転するように工夫をしたのですがそれさえも受けることができなくなっています。

結果的に極論により『崩壊』に走ってしまうことになります。「死ぬときは一人で死ぬから」「自治組合に面倒見てもらわなくてもやっていける」「能力がないから役員ができない」など聞いていると悲しくなる言葉が出てきてしまいます。誰にも迷惑を掛けずに生活している人はいないと思いますし、他人からの迷惑を受けながら生活していることは当たり前です。これは災害が発生したときに助け合うことだけが共助ではなく、これも小さな意味では共助ではないかと思えます。

どのようにそこから逃げのろかを考えるのではなく、どうやって共に助け合うことができるのか考える市民となれるよう努力していきたいと思えます。



敬老会



二十歳を祝う会